

「茂原市人口ビジョン」(骨子案)

I. 人口の現状分析

- 茂原市の人口は、2000年の93,779人をピークとして減少に転じており、2015年4月1日時点の住民基本台帳人口では91,646人となっている。
- 年少人口は1980年から、生産年齢人口は95年から減少が続いている一方、老年人口は増加が続いている。
- 自然増減は2005年以降、死亡が出生を上回る自然減が継続しており、その減少幅が拡大している。
- 社会増減は、2001年に29年ぶりに転出が転入を上回る社会減となったあと、社会増減がマイナスに寄与する年が多くなっている。20～39歳においては95年以降、転出超が続いている。
- 転入超過は「いすみ市」、「白子町」など茂原市からみて太平洋側、転出超過は「千葉市」、「船橋市」など茂原市からみて東京湾側で目立っている。
- 合計特殊出生率は、2013年で1.25と国（1.43）、県（1.33）より低い。
- 地方創生に関する市民意識調査における茂原市民の希望出生率は1.65となっている。

〔参考〕人口増減に影響を与えている事象

- 就業者の業種では、「製造業」や「卸・小売業」、「医療・福祉」が多くなっている。
- 茂原ハローワークの有効求人倍率は0.55（2014年）と県内で最も低い水準となっている。
- 市内通勤・通学率は55%（県内16位）、昼間人口比率は97.8%（県内12位）と雇用・教育・商業などの面で長生地域における拠点性を有している。
- 社会指標では、商業や人口あたりの薬剤師・歯科医師・一般診療所など身近な医療体制の優位性が高く、行財政、安心・安全分野がやや劣後している。

II. 将来人口推計

① 2015年を基準年とし、2005～2015年の社会移動率、現状の出生率（1.25）が今後も続いた場合

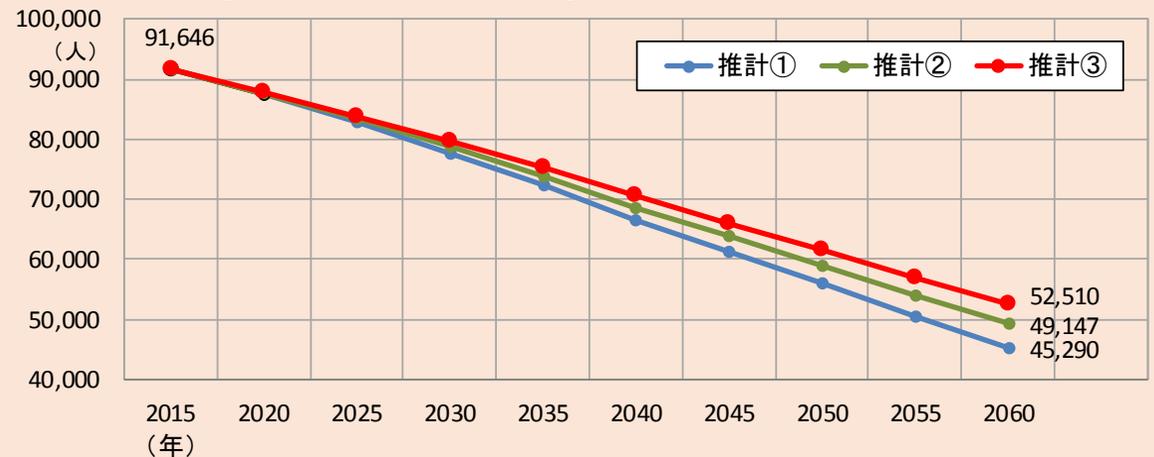
2040年：66,589人 2060年：45,290人

② 2030年までに希望出生率（1.65）を実現した場合（その他の前提は①と同様）

2040年：68,709人 2060年：49,147人

③ 2030年までに希望出生率（1.65）を実現し、2030年までに20～39歳の社会減を半減させた場合

2040年：70,471人 2060年：52,510人



III. 人口の将来展望

1. 2060年に目標とする将来人口（仮）

53,000人（上記の推計③のベース）

2. 将来人口の実現に向けて目指すべき方向性（基本目標）

- 産業が力強く成長するまち【産業振興】
- 結婚・妊娠・出産・子育てを応援するまち【少子化対策】
- 市民の活力と賑わいにあふれるまち【定住促進・就業支援・観光振興】
- 地域力が暮らしを支えるまち【医療・介護・福祉、防災・防犯・交通】